

きにさびれてしもたはずや。なんせ戦国時代で、あっちこっち戦争ばかりやったでの。ほんとになんで昔の人は争うてばかりいたんやろかの。

### ⑰ にぎわった清水町

河和田にも町があったって。そう清水町（東清水町）や。

朝倉氏が栄えたころは、ここもにぎやかなとこやった。一乗谷から金谷坂をのぼってくと、まっ先に清水町が見えるんや。

寺中をすぎると、なわての両側にかじやが並んでいる。刀やくわ、かまをつくったり、馬の蹄鉄をつくったり、トントンカン・トントンカンと朝早うからいせいのいい音がびびっている。

村の中に入ると、朝倉の家臣の四郎左衛門の屋敷があって、射場では部下が弓の練習をしている。百姓家の向こうには、真言宗悦相院の屋根瓦が光っている。それに、ここには遊女もいたっ

ていうでの。そのころは戦国時代やで、男はしょっちゅう戦さになり出された。戦さが終わると、坂を越えて疲れをいやしに来たんやろ。女がうたうはやりの歌を聞きながら、お酒を飲んで、生きて帰れてよかったとつくづく思ったやろ。

それから村の入口にの、「夜泣き石」というて、その上で首を切ったという石もあったんや。首を切られた人の悲しみがしみこんでいたんかの。この石を動かすと、夜じゅう石が泣いたり、たまに光ることもあったんやと。

